

町のお医者さん

佐々木万里代

迫田病院（宮崎県宮崎市）

自己紹介

2003年、大分大学を卒業後慶應義塾大学医学部内科学教室に入局し、2年間の臨床研修を経て同大学大学院（腎臓内分泌代謝内科）に進学。伊藤裕教授、市原淳弘教授〔現 東京女子医科大学第二内科（高血圧・内分泌内科）〕のもとで学びました。その間、高血圧・腎臓・透析・内分泌分野の研修と、レニン・アンジオテンシン系の上流に位置する（プロ）レニン受容体の細胞内分子伝達機構の基礎研究に関わらせていただきました。2008年からの2年間は日本学術振興会特別研究員となり、2009年に学位を取得し、2010年に平塚市民病院へ出向後、2011年より豪州メルボルンの Baker IDI Heart and Diabetes Research Institute の Mark Cooper 教授率いる糖尿病合併症部門の研究室へ留学し、貴重な海外研究生活を体験させていただきました。

2012年に帰国し、父が創設した宮崎市の迫田病院に入職し現在に至ります。宮崎での生活も今年で7年目を迎えます。

現在、内科医師として外来・入院業務や、隣接する特別養護老人ホームの往診をおこない、また、法人内の各施設・部署の円滑な連携を目指した在宅総合部の部長を兼任しています。

当院について

内科（糖尿病内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、消化器内科、神経内科、血液内科）、外科（大腸・肛門外科、消化器外科、内視鏡外科、胃腸外科、血管外科）、リハビリテーション科、放射線科を標榜し、地域医療と専門分野を診療の中心として、外来、入院診療、訪問診察、訪

問看護に取り組んでいます。入院病床は総数104床を有します。

入院については、連携先のクリニックや施設からの前方医療機関、また高次医療機関からの後方医療機関としての双方向の役割を担っています。前方医療機関としては、肺炎・心不全をはじめとする急性期疾患の紹介、また地域の高齢化を反映した誤嚥性肺炎の入院症例が多い状況で、後方医療機関としては、慢性疾患としての脳梗塞や脳出血などの脳血管障害、骨折後の急性期治療後の回復期リハビリテーション目的の入院などを受け入れています。また、かかりつけ医と当院の医師が共同で治療をおこなえる開放型病床を一般病床に5床設置し、現在25医療機関が登録されています。

担当専門外来：

高血圧：当院の内科外来患者において高血圧加療中の患者は約4割を占めています。一般的な血液・尿検査の他、初診時には二次性高血圧の除外のための血液検査や、家庭血圧測定、24時間血圧測定、頸動脈エコー、脈波伝播速度/関節上腕血圧比、血管内皮機能検査などによる評価をおこなっています。自覚・他覚症状に乏しい状態で受診される方には、特にこのような動脈硬化進展度の客観的指標を用いることで、治療の早期介入の重要性を理解し、治療効果を実感していただけるように努めています。

腎臓：当院では、各種血液・尿・エコーなどの検査の他、治療、予防の観点から栄養指導を取り入れています。宮崎市では2014年度より慢性腎臓病（CKD）の重症化の予防を目的に、かかりつけ医や健診で尿潜血、尿蛋白、



写真 1 ◆迫田病院全景

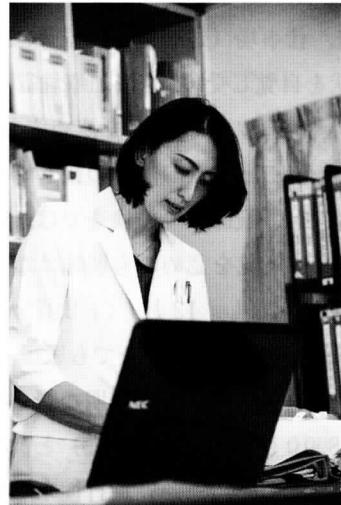


写真 3 ◆病棟



写真 2 ◆病院受付



写真 4 ◆在宅総合会議

腎機能障害が基準を超えた場合に腎臓病専門医へ紹介するという CKD 連携システムが構築されました。当院へは年間約 40 程度の紹介症例があり、検査結果から腎機

能・予後の評価をおこない、治療方針の確認をおこなっています。腎生検が必要な症例は近隣の高次医療機関へ紹介します。

当院での症例

60歳代男性。狭心症、高血圧症、脂質異常症で約5年前より当院外来通院中。外来血圧は120-140/70-80mmHgを推移し、服薬コンプライアンスは良好。2017年9月以後、仕事場（建築業現場監督）での易疲労感、脱水様症状を自覚し受診、点滴加療施行。血液検査でCrの軽度上昇、血圧の上昇傾向を認めており（Cr 1.25 mg/dl, eGFR 45.5 ml/min）、その後も腎機能障害が進行した（表 参照）。腹部エコー検査では、腎皮質の輝度上昇がありCKD所見を認めるも萎縮はなく、水腎症、腎動脈狭窄所見もなし。12月、Cr 2.92 mg/dl, eGFR 18.0 ml/minまで進行し、尿検査でも尿蛋白・潜血陽性、同時に尿蛋白/Cr比4.7 g/gCrと著明な蛋白尿を認め、MPO-ANCA 899.0 IU/ml（正常<3.5）と高値であったことから、ANCA関連腎炎・急速進行性糸球体腎炎が疑われ高次医療機関に紹介。同院でさらに腎機能の進行（Cr 3.02 mg/dl）を認めたため、ステロイドパルス療法が先行され、その後の腎生検の結果、光顕上細胞性半月体形成を認め、ANCA関連腎炎・急速進行性糸球体腎炎と診断された症例です。本例は、数年来の外来通院患者で服薬コ

表. 血液検査データの推移

	Cr mg/dl	eGFR ml/min	Hb g/dl	K mEq/l
1月	0.86	68.7	14.3	4.4
7月	0.99	58.7	13.1	4.7
9月上旬	1.25	29.6	12.4	4.6
9月下旬	1.28	29.0	11.9	4.0
10月中旬	1.62	34.2	11.0	4.0
12月中旬	2.92	18.0	10.6	5.8

ンプライアンスは良好、経過も比較的安定していた中で、腎機能障害が突如出現し進行した例でした。主訴、病態に応じて先入観を持たずに的確な検査、評価をおこなうことの重要性を再認識した1例でした。

おわりに

当法人は2017年4月に社会医療法人化され、同年10月に創立30周年を迎えました。より公益性の高い医療機関として、地域に根ざした健全な医療の提供と、円滑な医療・介護・福祉の連携を目指して参りたいと思います。皆さまのご指導、ご支援を賜れますと幸いに存じます。どうぞよろしくお願ひいたします。